

○海まるごと体験

京都府農林水産技術センター海洋センター

【概 要】

- 平成 12 年から継続していた、「一日研究員体験」について、参加者の増加を狙って、広報の仕方を工夫した結果、申し込み人数が前年度までに比較して大幅に増えました。
- 府民のみなさんが、京都府の海や漁業、海の生物やそれに関係する仕事について、楽しみながら理解できるよう体験メニューを考案して実施した結果、参加者から良い評価を受けることができました。
- 漁業者以外の府民の方からの声を直接聴く機会が少ない職場です。職員がさまざまな知恵を出し合い実施した事業で反応をいただくことは貴重な場であり、職員のやる気をさらにアップすることができました。

背景

◇「一日研究員体験：海まるごと体験」とは…

京都府の漁業振興のために、平成 12 年の「全国海づくり大会」を契機に、京都府立海洋センター（当時）の業務内容の体験を通じて、京都府の海や生物、漁業について、考えてもらおうと府民（主に小学生）を対象に取り組んできました。

◇ ただ、主な募集先を「海づくり大会」の開催市町の小学生（5,6 年生）及びその保護者に限定していたこともあり、1 回の参加人数は、70 人から 90 人前後で推移しており、当所が予定している人数（約 100 人）まで応募人数が達しない状況に、職員が苦慮していました。

◇ また、丹後地域にある府の研究機関として、地域の住民の皆様にもっと身近に感じてもらえる機会を提供したいと思っていました。

私たちとしては、京都の海や漁業のこと、海から得られる食べ物について、もっと多くの府民の皆さんに、関心を持って頂きたい、また、この体験を通じて、海や漁業のことについて、考える契機として頂きたいと思っていました。

目的

今回の取り組みの課題としては次の 2 点を大きな課題としました。

1. 参加申し込みの人数を現在よりも大幅に増やす！
2. 参加者には、とことん体験を楽しみながら、理解を深めていただく！

取組

- ☆ 課題を設定し、解決へのアプローチを行うことは、研究機関である当所の得意とするところです。
- ☆ 「海まるごと体験」について、職員の知恵を出し合いました。「職員会議」という正式な会議の場はもちろんのこと、職員が集まると、すぐにああしよう、こうしようと「海まるごと体験」について話が出る雰囲気になっていました。このように職員が積極的に意見を出していこうという空気の中でアイデアが多く集まりました。

1. 参加申し込みの人数を現在よりも大幅に増やす！

Step1：まずは、何が問題なのかを考えた。

- ☆ 参加者が限られていないか？
→募集の範囲を「海づくり大会開催市町の小学生」に限定してはダメ！
- ☆ 本当に情報は届いているの？
→イベントに参加したいと思っている人にまで、情報が届いていないのでは？

Step2：問題を解決するために何をすればよいのか考えた

- ☆ 参集範囲を丹後・中丹を中心に府内全域にして、小学生だけでなく全年代に広げよう。
- ☆ イベントに参加したい層に、情報を届けよう。


Step3：考えたことを実行した

- ☆ ターゲットは「保護者」
「参加者」のターゲットは小学生ですが、「参加の判断」は、小学生自身が行うのではなく、保護者が判断しているはずと考えました。そこで、小学生の保護者が一番目を通すと思われる「学校からの連絡プリント」に目を付けました。小学校向けのチラシと学校掲示板用のポスターを作り、中丹・丹後の市町教育委員会委員会の協力を得て、中丹・丹後地域の小学5、6年生に向けて全校配布（107校・293学級）を行いました。

海洋調査船「平安丸」で海洋調査を体験しよう！ 海の研究の体験もできます・・・



小学5年生、6年生のみんな、
教科書で水産業や海のことを勉強したね
海洋センターでは、海の環境や、魚や貝や海藻
を増やす研究をしています。
今年の夏休みは、そんな海洋センターに来てみ
ないか！
18.3トンの平安丸（左の写真）に乗って海に
出れば、いろいろなことを感じるはず・・・

- 1 日時
平成20年7月23日（水曜日） 午前10時から午後3時まで
- 2 場所
宮津市宇小田宿野 京都府立海洋センター（自家用車の駐車できます）
- 3 内容
午前、午後同じ内容になっているので、どちらかを選んでね。
(1) 午前の部
10:00～ 大事に育てているトリガイを知ろう！
10:50～12:00 平安丸に乗って海の調査だ！
(2) 午後の部
13:00～ 大事に育てているトリガイを知ろう！
13:50～15:00 平安丸に乗って海の調査だ！

* 海洋センターに来れば、このほか、次のような体験ができるよ
10、11、13、14時～ ロープワーク体験、魚の調査体験（解剖の実演）
* 自由に入れる展示室には、珍しい貝の標本なんかもあります・・・
- 4 申込・お問い合わせ
詳しい内容は、次のところに聞いてね
京都府立海洋センター 電 話 0772-25-0129
FAX 0772-25-1532
メール kaiyose@pref.kyoto.lg.jp
- 5 御注意（家の人に見せてね）
施設見学、研究体験はどなたでも参加できますが、平安丸の乗船は、安全のため
小学生以上とさせていただきます（3年生以下は必ず保護者同伴をお願いします）。
また、乗船希望については7月14日（月）までに事前申込をしていただき、運
動靴等滑りにくい靴で乗船いただくようお願いいたします。

小学校に配布したチラシ

☆ 情報を欲しい人に届けよう！

小学生以外の一般の府民向けについては、地元でのイベントに参加したいと考えている層（地域の話題に興味があり、積極的に関与したいと思っている人たち）に向けて、地元のミニコミ誌へのイベント記事掲載が、効果が高いと考え、地元の2誌（みやづ瓦版（宮津市域に配布）、Towntown（中丹から丹後・丹波地域配布））に掲載をして頂きました。

☆ 「地域に開かれた研究機関でありたい」という思いから、海洋センターの地元である地元地区自治会を通じて地域の住民の方にもお知らせしました。

☆ もちろん従来から行ってきた京都府ホームページや、「京都府民だより」への掲載、ラジオ放送によるイベント情報告知も併せて行いました。

2. 体験をとことん楽しみながら、理解を深めていただく！—について

平成12年から継続してきた事業ですから職員が今までの反省点を洗い出し、「とにかく楽しく体験ができる」よう心がけました。

Step1：まずは、何が問題なのかを考えた。

☆ 平安丸乗船体験では船酔いが大敵

→なんとかしなきゃ！

- ☆ 魚の解剖体験
→クサいのがダメだ！
- ☆ ロープワーク
→難しい？！
- ☆ もっと、もっと新しいメニューも考えよう！

Step2：問題解決のために何をすればよいのか

- ☆ 船酔い対策は揺れないのが基本！それに、船上でもっと楽しめれば船酔いなんて忘れてしまうのでは？
- ☆ 解剖は新鮮第一、においの少ない魚を用意しよう！
- ☆ 難しいと思われがちなロープワークも、丁寧に教えれば、難しくはないはず！
- ☆ 普段経験することの少ない海の生き物を取り扱う仕事を体験してもらったらどうだろう？

Step3：考えたことを実行しよう

- ☆ 平安丸は波のある沖まで出ないこと。船の中でも水温計測実習、水中カメラロボット操縦体験、丹後の魚観察などの体験メニューを用意して、退屈させないよう工夫しました。
- ☆ 解剖に使う魚は、当日の朝に直接漁港で用意しました。
- ☆ ロープワークは、教える人を多くして、じっくりと教えることとしました。
- ☆ トリガイの選別作業を体験メニューに加えました。



左から平安丸乗船・魚の解剖・ロープワーク・トリガイ選別体験の様子

番外編：海づくり大会関連事業としての「一日研究員体験」も継続して開催しており、昨年は舞鶴市福井小学校が来所しました。その中で、従来の講義のメニューに代えて、当所の職員が考えた、京都の海や魚・漁業にまつわるクイズを実施しました。

パワーポイントでスライドを作成し、実験や実物を見せながら楽しく学べる内容に仕上げました。

このクイズの正解者には、京都府で見られる海の生物の写真を載せ、特徴や料理法などの情報も添えたカード（72種類＋シークレットカードも）をつくり記念品として差し上げたところ、クイズ、カードとも好評でした。



クイズの最初のスライドとお魚カード

また、体験に参加される方の人数や、行動の順番、動線を考え、広い敷地内をどのように案内するか、お昼ご飯を食べるスペースをどのように提供するか、また、夏の暑い時期に開催することもあり、休憩の時間やスペースの確保についても心を砕きました。このように体験される方の視点に立って一つ一つ点検作業を行いました。こういう地道な作業があってこそ、体験を楽しんで頂けたのだと考えています。

効果

◎効果を実感！参加申し込みは大幅増加！

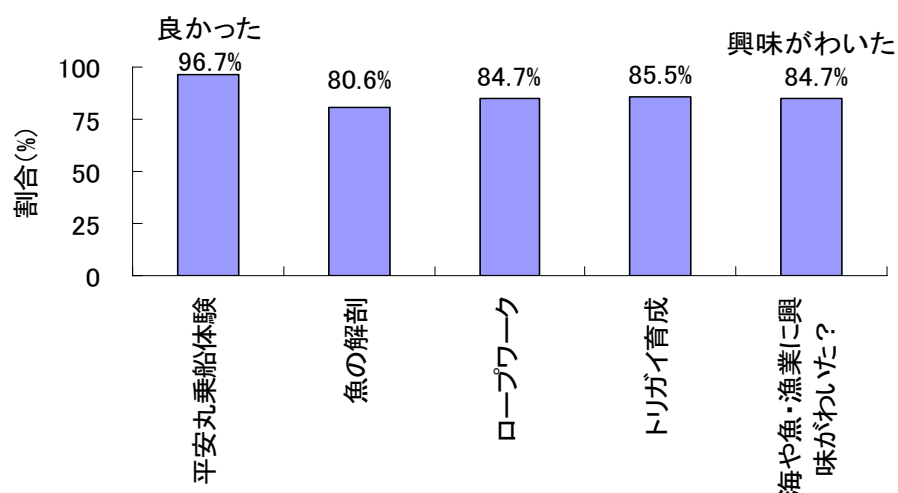
- ☆ 実は、効果は当日より前に、すでに「申し込み希望多数」という形で、実感できていました。当初は、体験人数 100 人程度を見込んで準備をしていましたが、急遽受け入れ体制を見直し、体験人数を増やし、最終的には、約 150 人の方に来所いただき、様々な体験をして頂くことができました。それでも、申し込み期間後半には、多くの体験希望の方をお断りせざるを得ない状況となってしまい、心苦しい思いをしました。
- ☆ 体験をされた方に対してアンケートを行いました。設問の中に、「今日の施設公開は何で知りましたか？」という項目を設けていましたが、その結果、最も多かったのは、「小学校配布のチラシを見て知った」という回答でした。また、次はミニコミ誌（2誌）を見て知ったという方が多くなっていました（下表参照）。また、アンケートには回答されなかったものの、地元地区からも多くの方が参加されていました。私たちの、もっと多くの人に参加して頂きたいという思いは、情報の伝え方を工夫することで、より多くの府民の方に伝わったと思います。
- ☆ もちろん、今までから取り組んできた、府民だよりや HP の効果もありました。特に、参加をお断りした方達の多くは、府民だよりを見て申し込まれた方達でした。

表 海丸ごと体験を知った情報媒体の種類およびその割合

| 媒体名 | 割合(%) (回答者 99 人中) |
|-------------------------|-------------------|
| 小学校配布のチラシ | 41.4 |
| 地元ミニコミ誌 (Towntown・宮津瓦版) | 17.3 |
| 府民だより | 16.2 |
| 海洋センターHP | 11.1 |
| その他 | 10.1 |
| 選択なし | 4.0 |

◎参加者からは好評でした！でも…

☆ 体験の参加者アンケートで、メニューごとに評価してもらったところ、「良かった」とする意見が多く寄せられ(下図参照)、楽しく体験できたことが伺えました。また、海や魚や貝に興味があったかどうかについても、参加者の多くに興味を持ってもらうことができました。



まるごと海体験アンケート結果

☆ 自由意見の中では、職員の説明がわかりやすかったとか、丁寧に対応してもらった等のうれしい意見がありました。一方で、「魚の解剖」では気持ち悪かった、「ロープワーク」では、難しかった等の厳しい意見も頂きました。

◇ 海洋センターは、いろんな立場の職員が、いろんな意見を言える職場の雰囲気があります。このようなイベントに取り組むことで、さらに意見を言いやすい雰囲気が醸成されたと思います。

◇ 一つの取り組みを成功させるために、職場で自由に意見交換をしてアイデアを出し合い、

多くの人のアイデアを取り入れて準備することで、職場で一体感を持ち、よりよいものができる。ということを改めて実感できました。

- ◇ 漁業者以外の府民の意見を直接聞く機会はあまりないので、漁業者のための研究機関ではあっても直接府民の方の声を聴くことは貴重なことです。このイベントそのものが良い機会となっています。また、府民の方から、「漁業の発展のため努力されていることがわかった」、「今後の活躍に期待します。がんばってください」等の激励の言葉を頂くと、単純ですがモチベーションが上がりました。また、漁業者以外の方も漁業や食料生産に興味を持ち、研究の成果に期待されていることがわかり、いっそう気が引き締められました。

振り返りと今後の課題

- ◇ 参加者から丁寧な説明で良かったと評価されたのは、普段から、漁業者に対して研究成果をわかりやすく説明し、指導するといった業務を行っていることが活かされたと思います。普段の業務の積み重ねが大切ということも実感できました。
- ◇ 今回の取り組みでは、必要な情報をきちんと届けられれば、大きな反応があることが実感できました。ただ、それぞれの情報発信時期をうまく合わせられなかったため、府民だよりを見て申込期間後半には、多くの方をお断りしてしまう結果となりました。今後は、募集の方法だけでなく、そのタイミングや、応募されてきた方に不公平のないような参加決定方法を考えなければならないと考えています。
- ◇ 体験メニューについては、昨年のメニューだけでなくほかにも色々と楽しいアイデアがあると思います。職員が自由にアイデアを出し合い、今後もより多くの府民の方に楽しみながら、海や漁業について学んで頂ければいいなと思います。
- ◇ 今年については、地域ミニコミ誌をもう一誌増やすとともに、府民だよりへの掲載スタイルをより目に付くように広報課に配慮していただきました。募集についても、昨年の経験から日程発表のタイミングを考慮し、すべての広告媒体で公開されるのを待ってからの時期とし、先着順の受付としました。さらに、人気メニューの海藻押し葉づくりを復活させました。

企画総務課コメント

地域の皆さんに丹後の海を知ってもらおうと始まった取組…。でも定員に達しない。そこで参加者を増やすことを目的に「欲しい人に届ける」募集にするため「ターゲットをしっかりと絞り、どうすれば届くか」について職員で知恵を出し合い、見事に成功しました。

また、参加してくださった方に楽しんでもらうことにもこだわりました。職員みんなでわいわいと考え、まず職員自身が楽しんでアイデアを出すことで、皆さんに楽しんでいただく企画になり、さらにそれが職員のやる気につながっていった様子がよくわかります。

定員を超える募集にも「成功した」「良かった」で終わらず、アンケートの結果を分析し、課題を解決して今年度はより満足していただける取組へとつなげました。

普段から顧客(漁業者)の視点に立ち業務を実施してきた姿勢が、府民視点での取組につながり、大きな成果につながった好事例です。